

大船渡市の復興計画・進捗状況 と専門家に期待すること

～災害復興まちづくり支援機構記念講演会～

平成24年11月30日

大船渡市副市長 角田陽介

本日本話したいこと

- 1) 自己紹介
- 2) 大船渡市の被害状況
- 3) 大船渡市の仮の復興状況
- 4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き
- 5) 専門家に期待すること
- 6) 被災地の復興に向けた課題
- 7) 最後に

1) 自己紹介

ダイヤモンドオンライン

「復興通信被災地のいま【第2回】」

(URL : <http://diamond.jp/articles/-/24416>) より



平成4年国立広島大学附属高校卒業、平成8年東京大学工学部都市工学科卒業、同年建設省入省。

国土交通省近畿地方整備局港湾空港部港湾計画課長補佐、九州地方整備局建政部都市・住宅整備課長、都市局街路交通施設課整備室課長補佐等を経て、平成24年4月より大船渡市副市長。

東日本大震災からの復興に当たっては、国土交通省都市局の地区担当として宮城県亘理町・山元町を担当し、両町の復興計画の策定支援にも携わる。昭和48年生まれ38歳。

1) 自己紹介

○家族は、妻と1男1女の4人家族。横浜の自宅に家族を残して、大船渡市へ単身赴任中。

○連絡先

07122@city.ofunato.iwate.jp

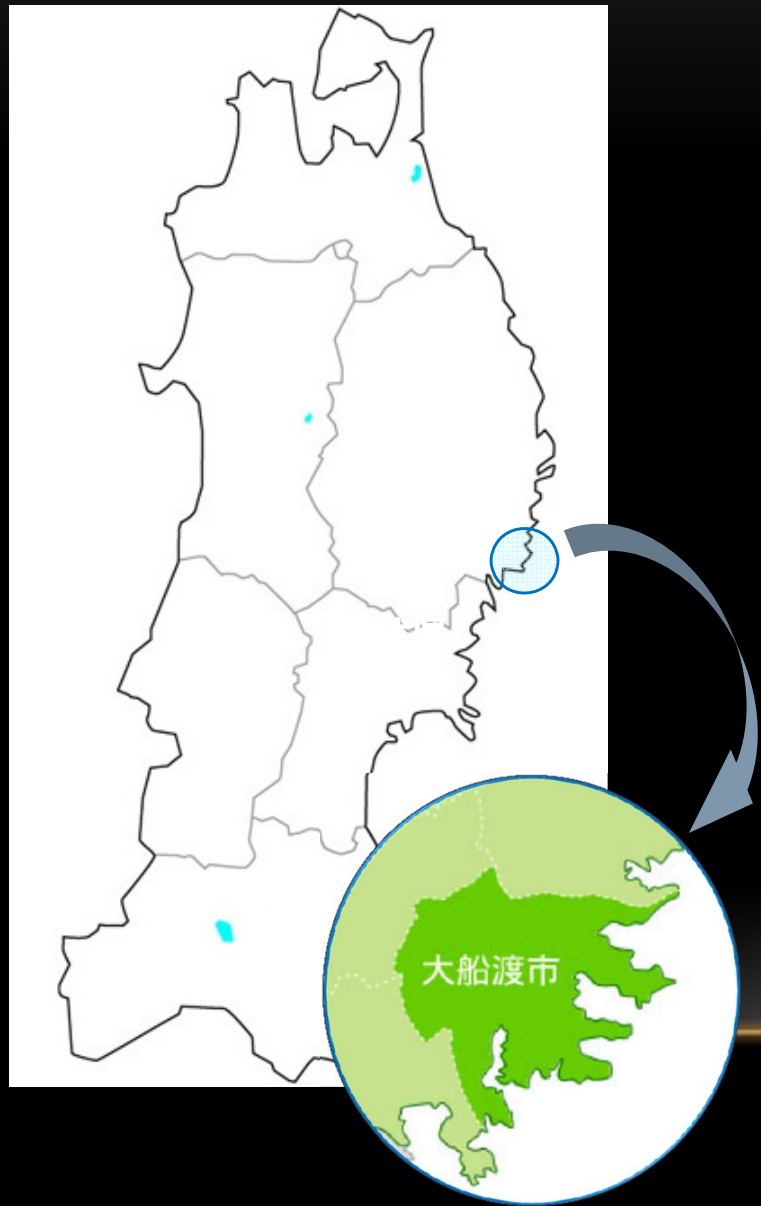
<http://facebook.com/tsunodayousuke>

Twitter @tsunodayousuke

※Facebookの友達は、お話したことのある方に限っています。友達申請ご希望の方は、帰る前にその旨直接仰っていただきたく存じます。

2) 大船渡市の被害状況

■大船渡市の位置・概要



- 岩手県沿岸南部に位置し、気候は温暖
- 人口：39,448人
- 面積：323km²
- 世界三大漁場である三陸沖を活かした水産業が基幹産業の一つ
- 大船渡港は、県内初の国際貿易定期コンテナ航路を開設している

データは特に断りがない限り、
H24. 10. 31現在

※震災により、港湾施設・設備等が被災し、現在
休止。再開に向け準備中

2) 大船渡市の被害状況

■3.11 地震・津波の状況

14:46 地震発生（三陸沖、マグニチュード9.0）

14:49 大津波警報発表

14:54 津波第1波観測 0.2m（3.11 気象庁発表）

《大船渡町に押し寄せた津波》



観測最大波

15:15	3.3m	3.11 気象庁発表
15:18	8.0m以上	3.23 気象庁発表
不 明	11.8m	4.5 気象庁現地調査



2) 大船渡市の被害状況

□ 人的被害

死亡者：340人

行方不明者：80人

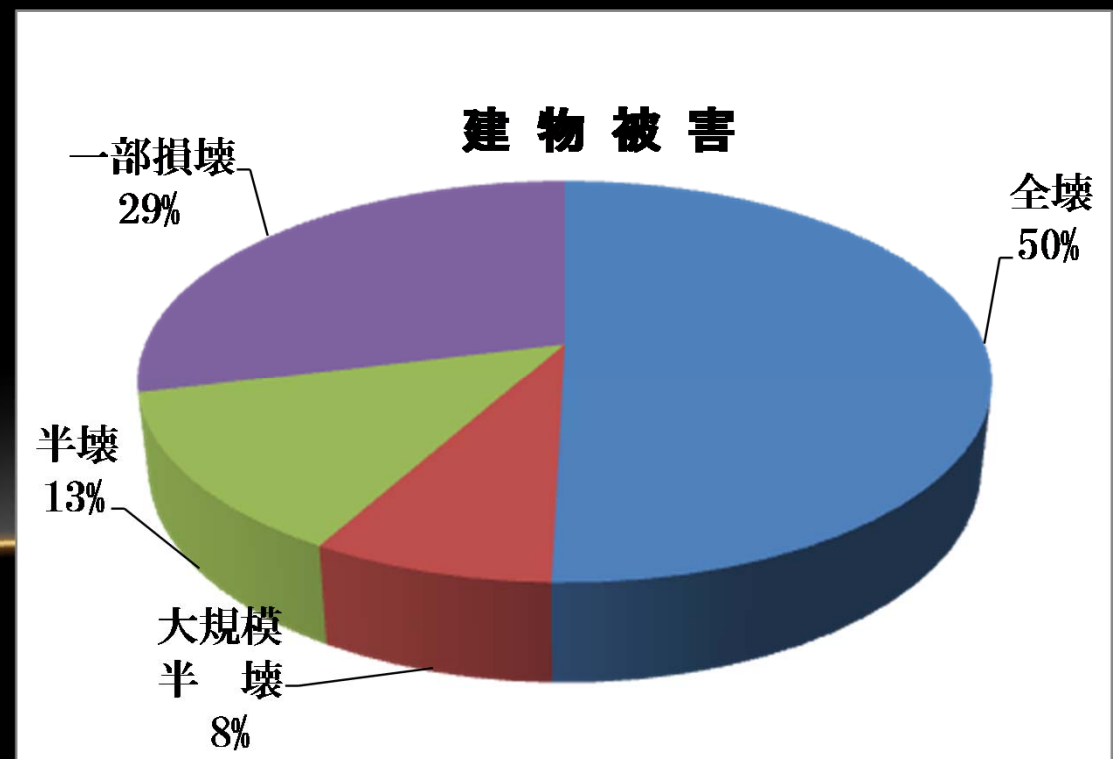
□ 建物被害 (5,529世帯)

全壊 2,787

大規模半壊 428

半壊 718

一部損壊 1,596



2) 大船渡市の被害状況

■3.11 当日の市の対応

□災害対策本部と地区本部の設置

◎災害対策本部

地震発生と同時に市役所に設置

14:49 避難指示を発令

◎地区本部

同日中に市内沿岸7地区に設置

※4.25 盛地区本部も設置

➡ 本部の廃止：H23.8.31 17:15



2) 大船渡市の被害状況

■復旧・復興に向けた組織体制

□災害復興局の設置

復興を推進する専任部局

H23. 3. 23 専任職員 7 名を配置

H23. 4. 1 ~ 1 名増員 (8 人体制)

H24. 4. 1 ~ 災害復興局に復興政策課、土地利用課、
集団移転課を置き、体制を充実 (31 人体制)



□災害復興推進本部の設置

H23. 4. 11に設置。以後、定期的に本部会議を開催。

2) 大船渡市の被害状況

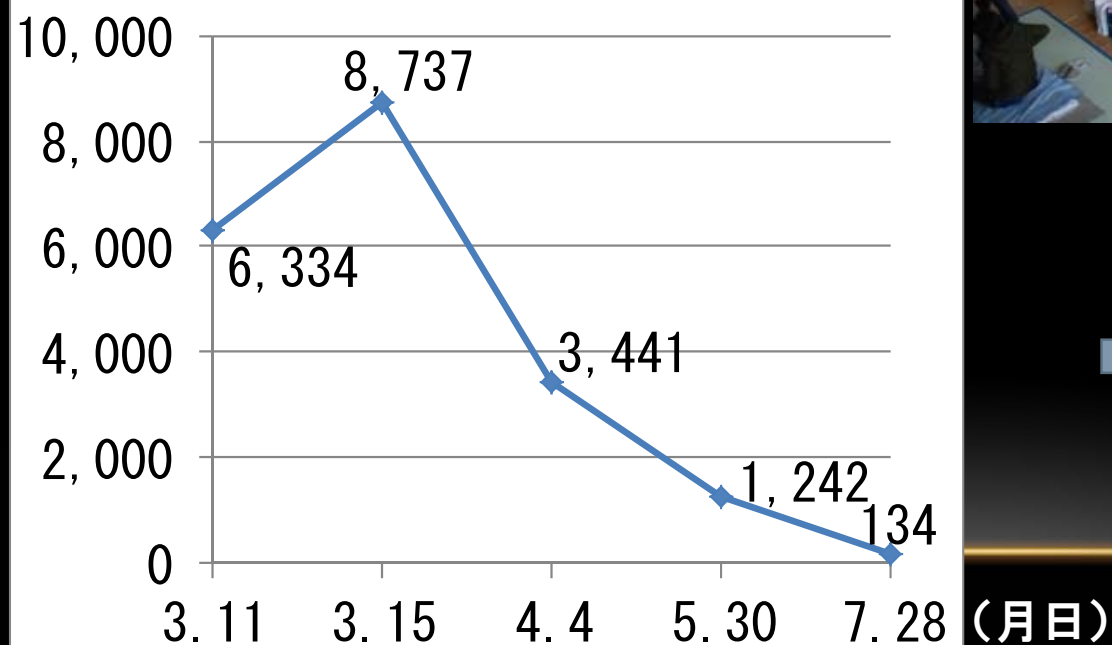
■避難所の運営

□避難所と避難者数

最も多いときには

60カ所に8,700人超が避難

(人)



➡ 応急仮設住宅などへの
入居に伴い、H23.8.28
に全避難所を閉鎖

3) 大船渡市の仮の復興状況

□応急仮設住宅

市内37カ所に1,801戸を整備

H23.3.25から順次着工

H23.7.28までにすべて完成

□民間賃貸住宅（みなし仮設住宅）

2年間の家賃などを県が負担

□住宅応急修理

修理により、自宅での生活が可能
となる世帯を支援

《応急仮設住宅の整備状況》

地 区	戸 数	箇所数
盛	91	5
大船渡	357	6
末 崎	313	5
赤 崎	240	7
猪 川	439	8
立 根	120	1
綾 里	90	1
越喜来	146	3
吉 浜	5	1
計	1,801	37



3) 大船渡市の仮の復興状況

□がれきの撤去

発生量（推計）＝75万6,400トン

H23. 4. 11 市内8地区で撤去を開始

H23. 6. 22 セメント工場で、がれきの焼却処理を開始

撤去完了面積 (H24. 3. 26現在) ＝744ha 【撤去率97%】

処理量 ＝ 41万1,593トン 【処理率54%】



□障害車両の撤去・移動

H23. 3. 20から開始

完了車両 (H24. 2月末現在) ＝4,843台



3) 大船渡市の仮の復興状況

□保育所・幼稚園

- ・越喜来保育所・幼稚園：越喜来幼稚園で合同保育
- ・崎浜保育所：休止し、越喜来保育所・幼稚園で保育

□小学校

赤崎小学校：蛸ノ浦小学校で合同授業

越喜来小学校・崎浜小学校：甫嶺小学校で合同授業

(H24. 4. 1に当初予定通り3校統合)

□中学校

赤崎中学校：大船渡中学校で授業

H24. 7. 9から仮設校舎(フレアイランド尾崎岬内)で授業



3) 大船渡市の仮の復興状況

◎救援物資の確保（大船渡港）

H23. 3. 19～ 海面浮遊物の除去作業を実施。航路確保

H23. 3. 23・24 救援物資輸送船などが大船渡港に入港

◎り災証明書の交付

H23. 3. 28～ 交付件数：9,983件

◎被災証明書の交付

高速道路無料化

H23. 6. 22～ 交付件数：7,451件

◎市税の申告・納付期限の延長

◎水道・下水道使用料の納期の延長



救援物資とともに入港した国土交通省の清龍丸

3) 大船渡市の仮の復興状況

■ 仮設店舗などの建設

H23. 8. 23～ 建設開始

完成した施設から、順次、
施設を貸与して利用開始



□ 整備概要

(予定地及び現在、建設中・未着工を含む)

- ・ 建設地 77カ所
うち着工数72カ所 (着手率93.5%)
 - ・ 区画数 494区画
- ・ 形態 店舗、事務所、作業場など

《仮設店舗の整備概要》

地 区	建設地	区 画
盛	4	14
大船渡	25	199
末 崎	8	84
赤 崎	13	81
綾 里	24	99
越喜来	3	17
計	77	494

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

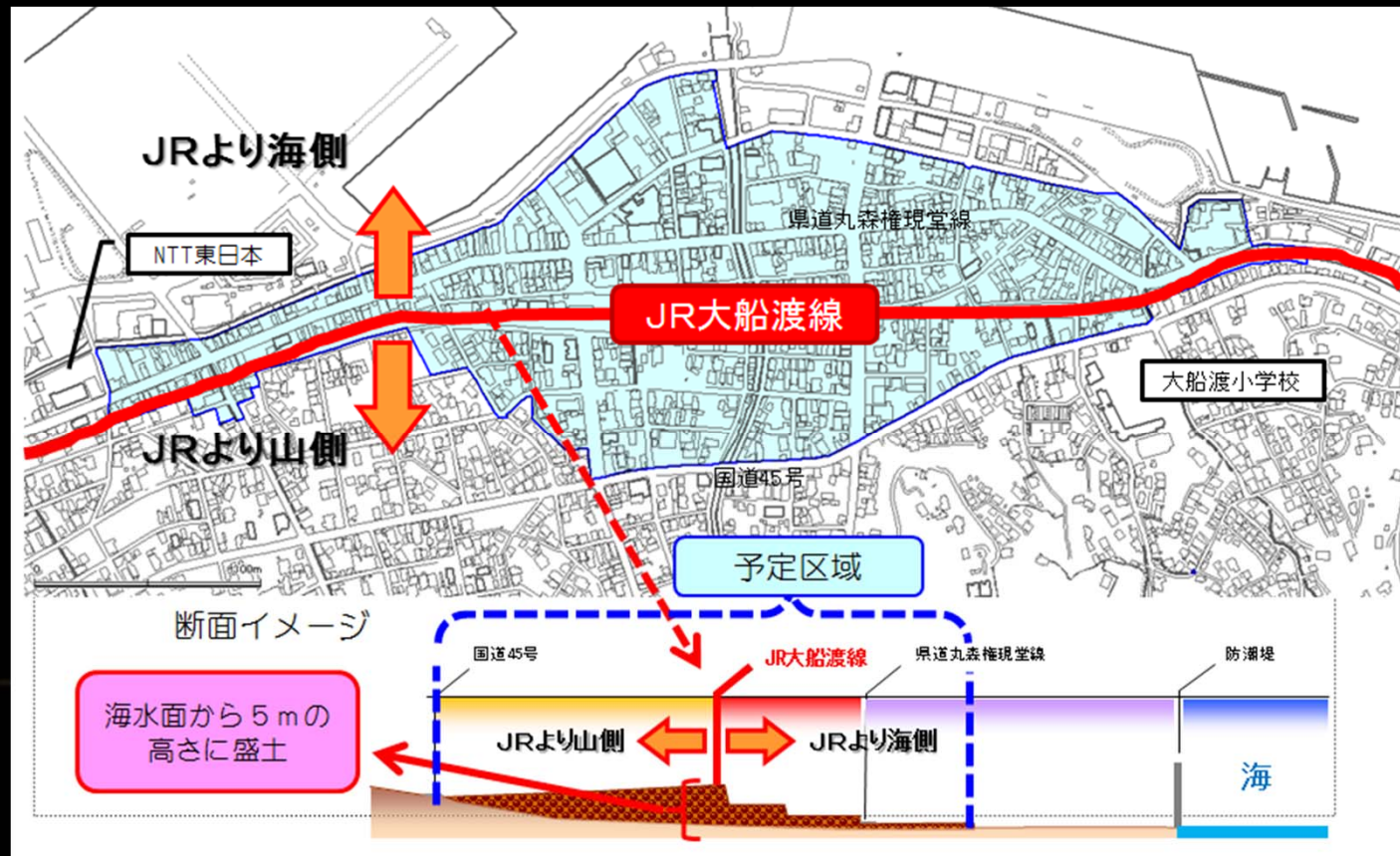
■災害危険区域の指定(現段階の案)

区域	想定浸水深	制限対象施設	
		住居の用に供する建築物	社会福祉施設、学校及び医療施設
第1種区域	概ね2.0m以上	建築禁止	建築禁止
第2種区域－A	概ね1.0m以上2.0m未満	基礎上端の高さが道路から1.5m以上かつ地階に居室を有さない建築物は建築可能。1.5m未満の場合、強固な建物で居室が2階以上の建築物は建築可能	建築禁止
第2種区域－B	概ね1.0m未満	基礎上端の高さが道路から0.5m以上かつ地階に居室を有さない建築物は建築可能。0.5m未満の場合、強固な建物で居室が2階以上の建築物は建築可能	建築禁止
第2種区域－C	－	地階に居室を有さない建築物は建築可能	地階に居室を有さない建築物は建築可能

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

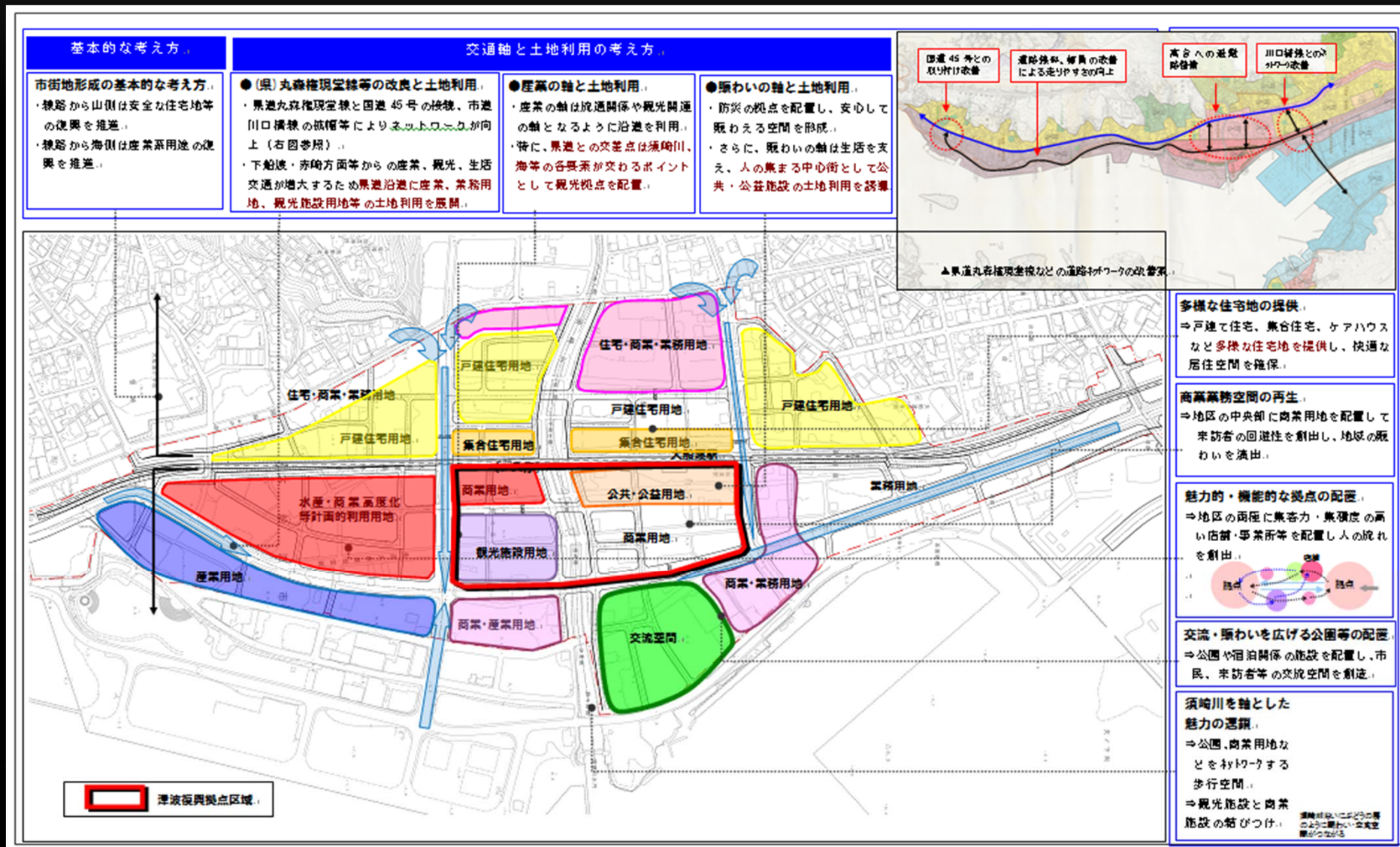
大船渡駅周辺・・盛土等により新しい中心地として再生
UR（都市再生機構）が現地事務所を設置。活動開始。

土地区画整理事業・・都市計画決定済み。建築行為に当たって市の許可が必要。



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○大船渡駅周辺地区整備の方針



○大船渡駅周辺（津波復興拠点整備事業のイメージ）



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○防災集団移転促進事業

□大船渡市内では22地区で検討中

うち9地区で復興交付金の配分を受ける（うち5地区は事業計画の国土交通大臣同意を得た）

残り13地区についても、復興交付金申請済み。

□できるだけ地域の方々自身で、事業への参加者や移転先用地の選定等を進めてもらっている

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○防災集団移転促進事業のプロセス

■防災集団移転促進事業・実施(予定)地区別進捗管理表		※3ページ以降の計画図(平面図)を付。前回会議(24.10.31)後に変更が生じた地区のみ添付しています。																			
項 目		地区名	移転戸数	男	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況	地区別進捗状況
大船渡市	1	大船渡北	14	04	■	■	□	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	2	大船渡南	102	—	■	■	□	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
東峰町	3	峰岸	21	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	4	神根	10	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	5	神根	10	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	6	小神根	8	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	7	小神根	41	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	8	梅神	14	P4~5	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	9	門之浜	18	P6~7	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	10	治里	16	04	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	11	拉野	7	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
東峰町	12	中東峰	145	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	13	永沢	59	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	14	清水	7	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	15	清水	21	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
二陸町	16	田沢	12	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	17	港・岩崎	28	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
三陸町	18	富貴	7	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	19	治	18	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	20	清沢南	12	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	21	清沢南・西	12	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	22	清沢東	15	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	23	崎浜	32	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	24	崎浜	32	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
合 計		602																			

凡例 ■=完成済、□=完成中、△=更新箇所

復興資金配分可能地域

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○防災集団移転促進事業の実施箇所図



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○災害公営住宅整備事業

□アンケート等により全体整備戸数を800戸とし、
県が7割、市が3割を整備。 県整備分の半数は市が管理。

□市整備分について

- ・ 既存の雇用促進住宅買取分は、本年12月入居開始
（しかし募集44戸中、応募は6戸。再募集中。）
- ・ 新設分のうち早いものは、既に整備に着手
平成25年度第一四半期に入居予定

□戸建て住宅については、限定的な要件を満たす地域において整備を検討。

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

□ 3. 11以前の課題克服

- ・ 地域経済の低迷
- ・ 高齢化社会への対応

□ 課題解決の糸口として

- ・ 気仙地域 2 市 1 町 + (一社) 東日本未来都市研究会が連携
- ・ 2 市 1 町の特徴を生かす

大 船 渡：水産業・港湾・製造業・観光

陸前高田：水産業・農業・伝統産業・海浜観光

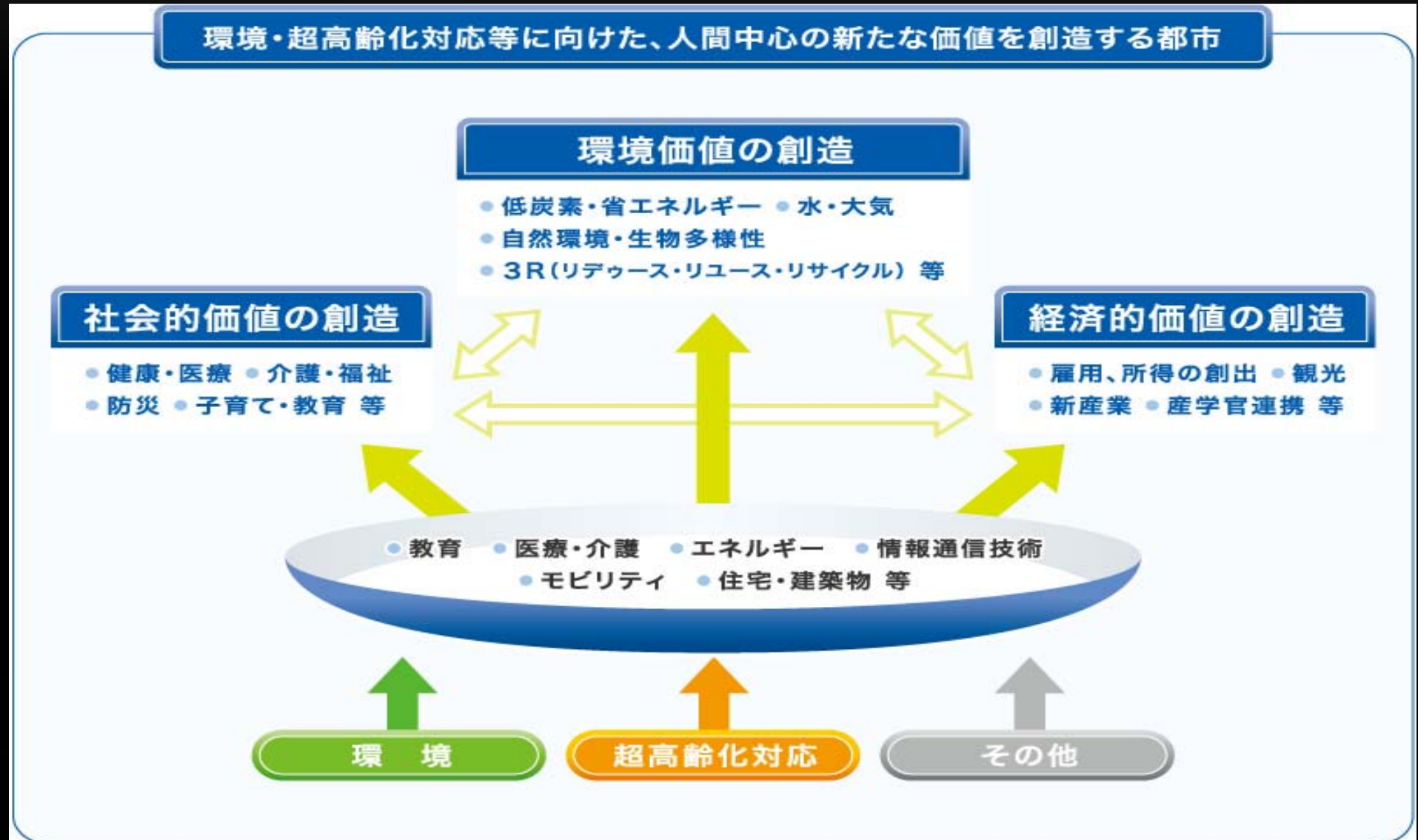
住 田：林業・高原観光



環境未来都市構想に応募

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○環境未来都市



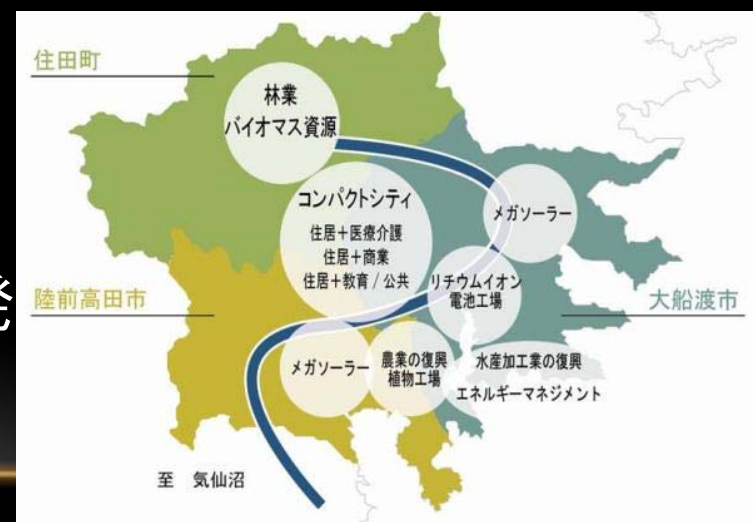
4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

○気仙広域環境未来都市

内閣総理大臣から「気仙広域環境未来都市」の選定を受け、気仙2市1町（大船渡市、陸前高田市、住田町）と（一社）東日本未来都市研究会の連名で計画策定

以下の分野ごとに、全国の大手企業等によって構成されたチームのノウハウなどを活用しながら取り組み

- 1)蓄電設備付帯メガソーラー発電所建設
- 2)コンパクトシティ整備
- 3)植物工場・水産加工業EMS構築
- 4)木造環境性能住宅団地モデル開発
- 5)医療・介護先進モデル創出



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

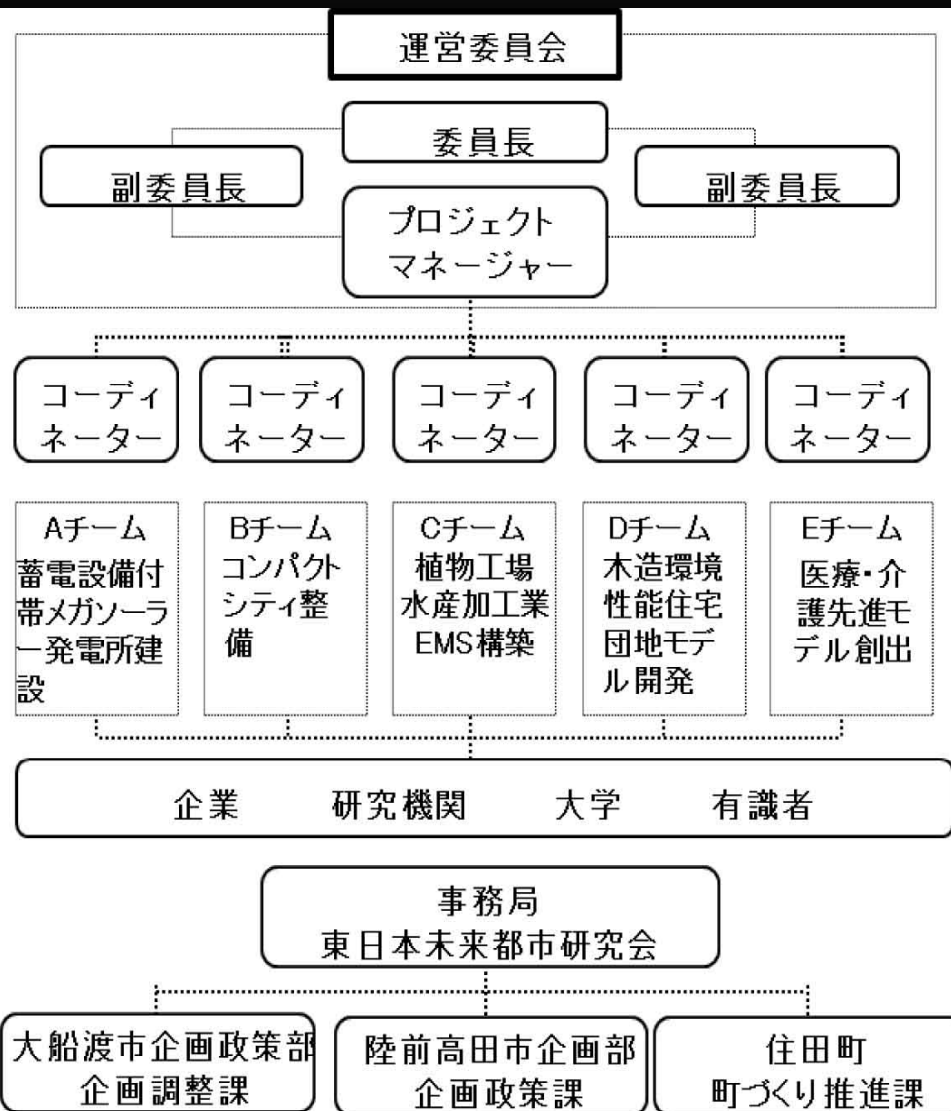
■気仙広域環境未来都市構想

- メガソーラー発電所の建設（蓄電池を付帯）
- スマートグリッド構築（再生可能エネルギー活用型）
- ハイブリッド・エネルギーシステムの構築（既存電力＋再生可能エネルギー）
- 大規模定置型蓄電池産業の振興
- 低炭素コンパクトシティの推進
- 植物工場・水産加工業EMSの構築
- （木造環境性能住宅モデルの開発）
- 超高齢化社会に対応
（まちと医療・介護・福祉の連携モデルの構築）

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■ 気仙広域環境未来都市の推進体制

気仙広域環境未来都市推進共同事業体



目的達成のために下記の事業に取り組む

- ✓ 調査研究に関すること
- ✓ 設計及び事業化に関すること
- ✓ 進行管理及び調整に関すること

運営委員会の役割

- ✓ 環境未来都市関連事業推進の承認
- ✓ 環境未来都市関連事業の総合的な調整

プロジェクトマネージャーの役割

- ✓ 環境未来都市関連事業の推進
- ✓ 環境未来都市関連事業の管理

コーディネーターの役割

- ✓ 環境未来都市関連事業の推進のための諸調整
- ✓ 担当プロジェクトに関する情報統括及び発信

事務局の役割

- ✓ 共同事業体運営に関する諸調整及び業務

4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■蓄電池を付帯したメガソーラー発電所の建設

本事業を実施するメリット

- ・電気の部分的地産地消化
- ・売電収入と地代収入
- ・各種エネルギー事業
- ・新たな雇用

平成24年度前期事業内容

- ・設置可能性調査
- ・電力系統、技術、設計
気象と発電効率性の評価
- ・概略システム設計



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■自然エネルギー活用型スマートグリッドの構築

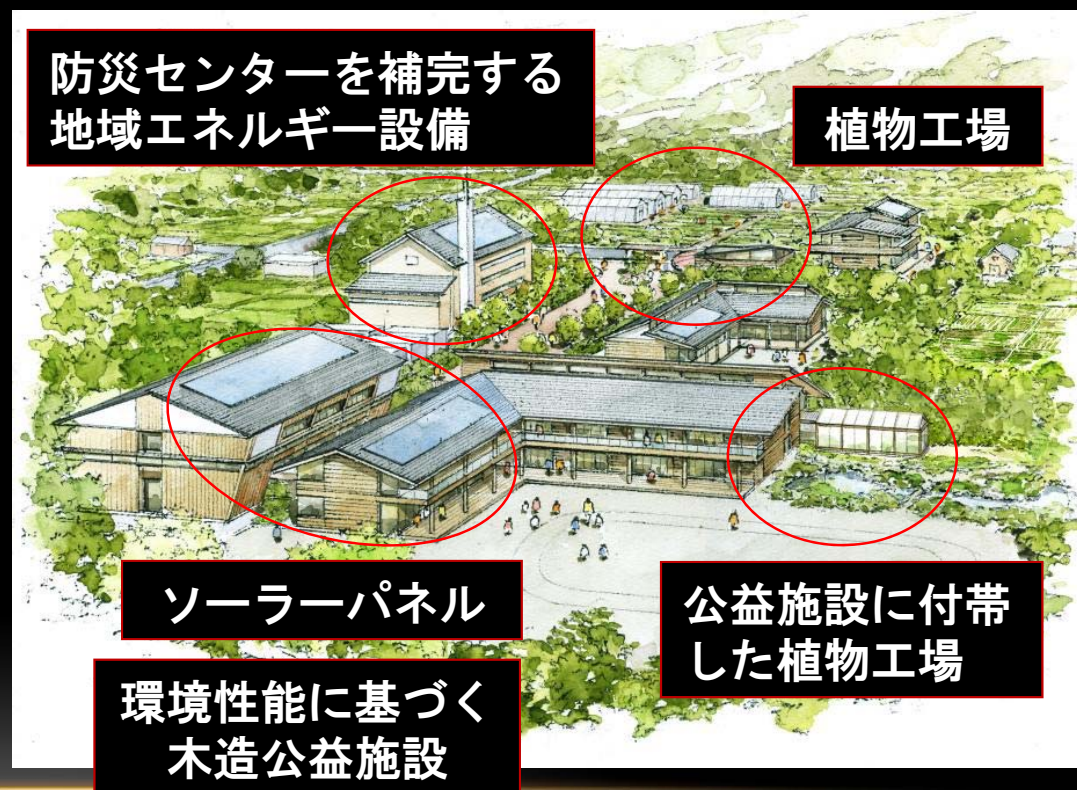
本事業を実施するメリット

- ・ 公共施設を防災拠点化
- ・ エネルギー低コスト
- ・ 環境意識
- ・ 分散的なスマートシステム

平成24年度前期事業内容

- ・ 新公共施設に、太陽光発電、蓄電池、バイオマス発電を導入
- ・ スマート化・防災拠点化したコミュニティ施設が併設したモデルの概念設計
- ・ 太陽電池と二次電池を導入したスマートハウスの仕様設計と経済効果の評価

地域の防災拠点、コミュニティ交流拠点を兼ねそなえた「公益施設」(案)



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■既存電力と再生可能エネルギーのハイブリッド・エネルギーシステムの構築

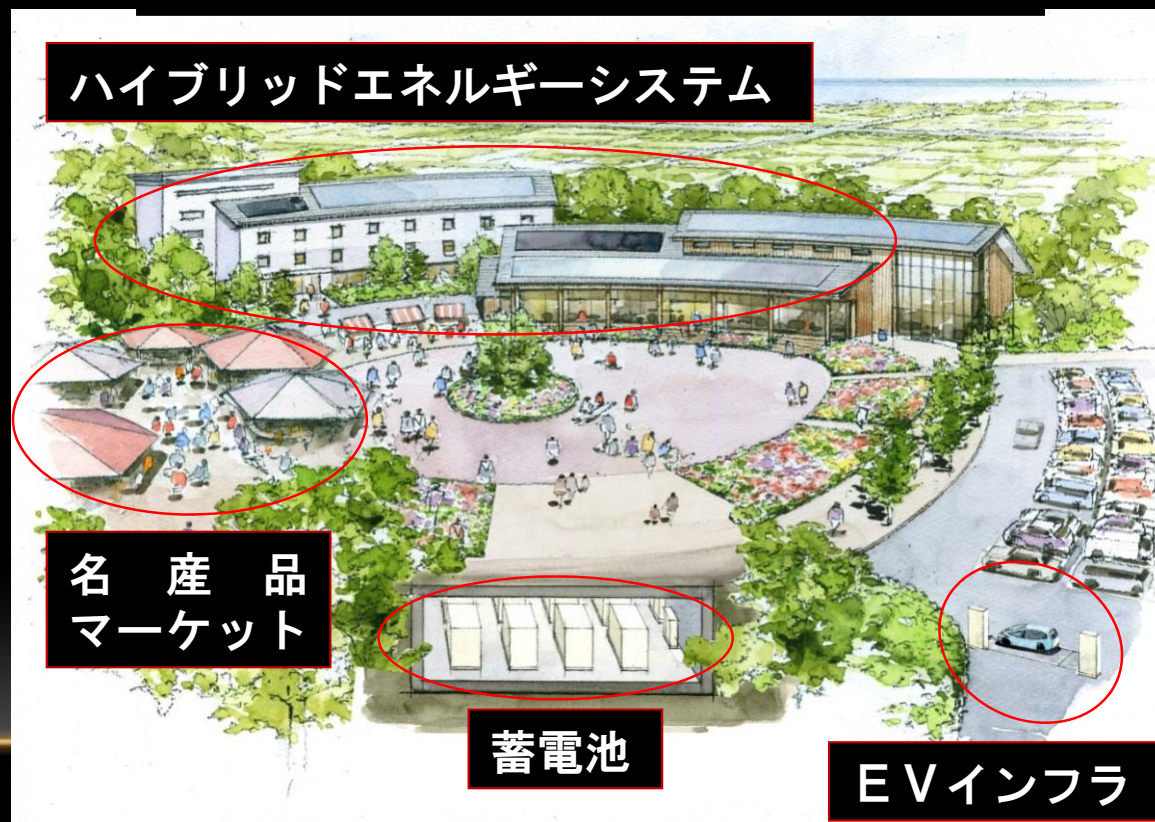
本事業を実施するメリット

- ・エネルギー関連企業誘致
- ・防災都市電気エネルギーシステム
- ・効率的な発電コストと安定した電力供給
- ・ハイブリッドエネルギー供給システム

平成24年度前期事業内容

- ・分散型地域エネルギーマネジメントシステム
- ・さまざまなシステムの概略設計とシミュレーション

地域内外の人と産業の交流拠点となる
「道の駅」(案)



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■大規模定置型蓄電池産業の振興

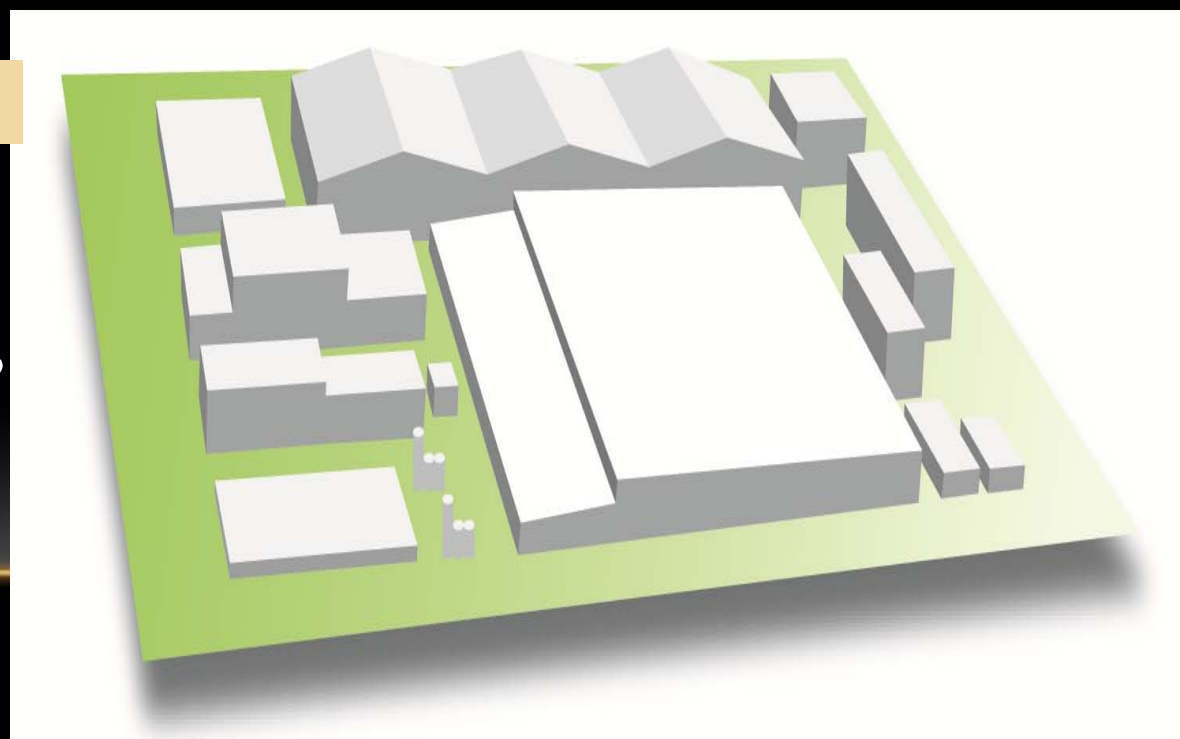
本事業を実施するメリット

- ・ 定置型蓄電池工場を誘致
- ・ 土地の有効活用
- ・ 蓄電池産業により産業振興



平成24年度前期事業内容

- ・ イニシャルコスト、インフラの検討
- ・ 必要な規制緩和や優遇措置や事業採算性についての検討



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■低炭素コンパクトシティの推進

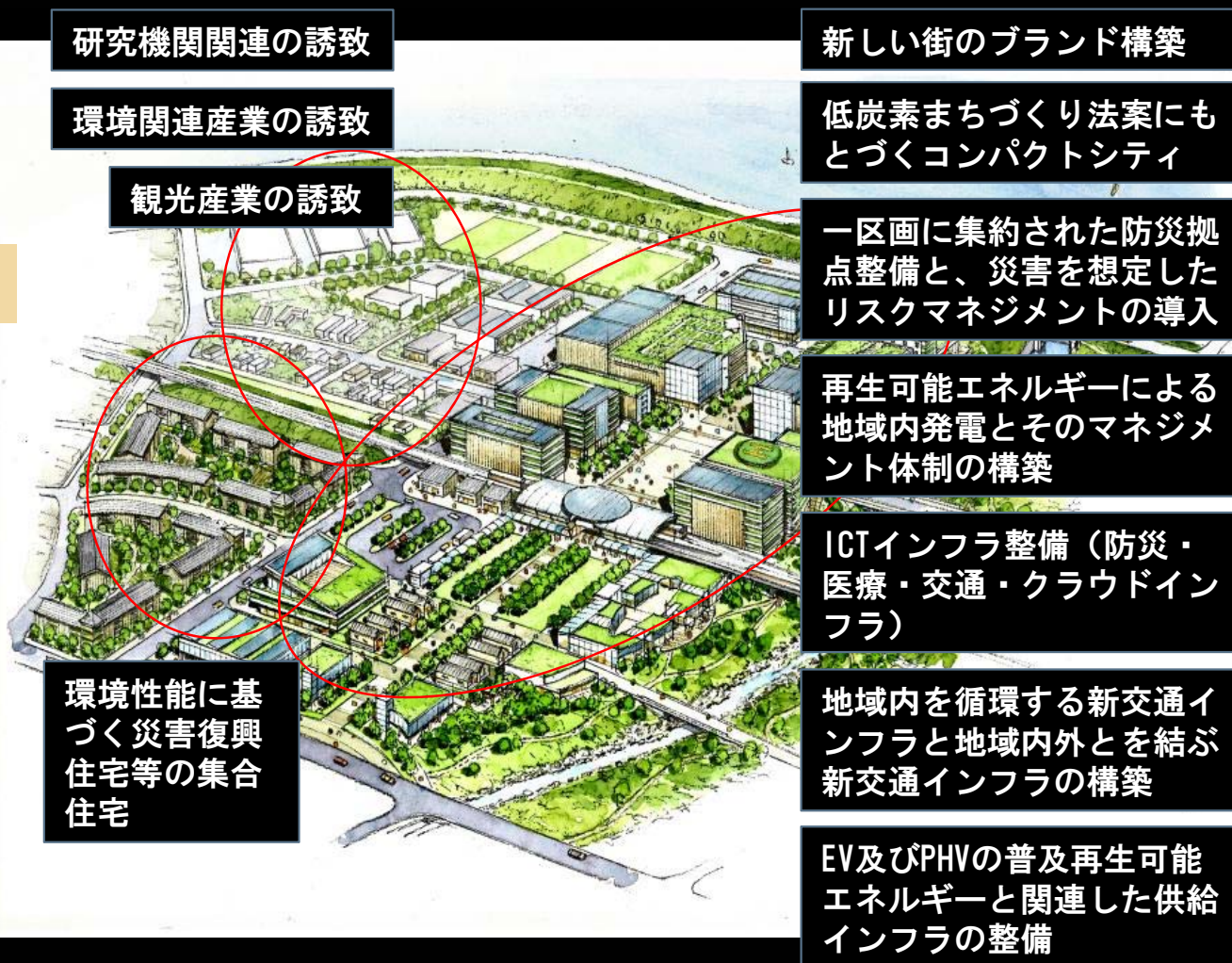
本事業を実施するメリット

- ・コンパクト商業シティ実現
- ・利便性の高い交通システム
- ・防災機能・交通インフラ・医療介護インフラの高度化

平成24年度前期事業内容

- ・低炭素化促進法律案に基づく事業の活用検討
- ・デザイン提案
- ・充電インフラの整備提案
- ・地域EMSの提案
- ・オンデマンド交通システムとの連携提案
- ・地域防災、交通、医療介護の高度化システムとの連携提案

新産業の誘致を喚起する 低炭素コンパクトシティ（案）



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

■植物工場・水産加工業EMSの構築

本事業を実施するメリット

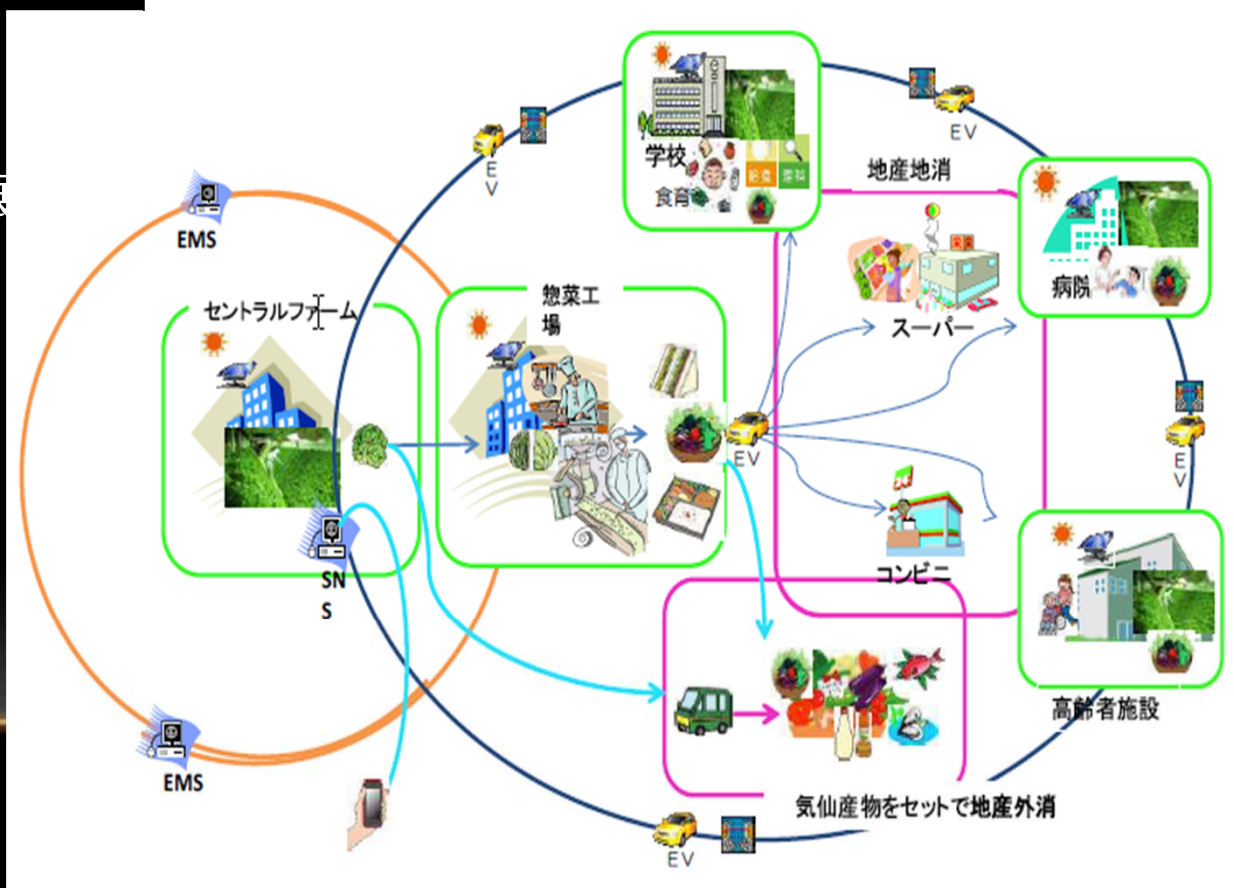
- ・地元企業の事業競争基盤を強化
- ・気仙地域の産品を大消費地域に対してブランド化し、新しい事業の創設、地域の活性化
- ・雇用促進
- ・農林水産工場のモデル事業展

平成24年度前期事業内容

- ・太陽電池、蓄電池、バイオマスエネルギーを導入した植物工場、水産加工工場のエネルギーマネジメントモデルの構築

農産物開発製造流通会社によるモデル設計の例

■事業主体：地元企業
■規模：●植物工場（セントラルファーム×1基 Iリファーム×3基） 生産物：レタス類+ハーブ+花
●惣菜工場×1工場 製造商品：サラダ、惣菜食品等



4) 大船渡市のこれからの復興に向けた動き

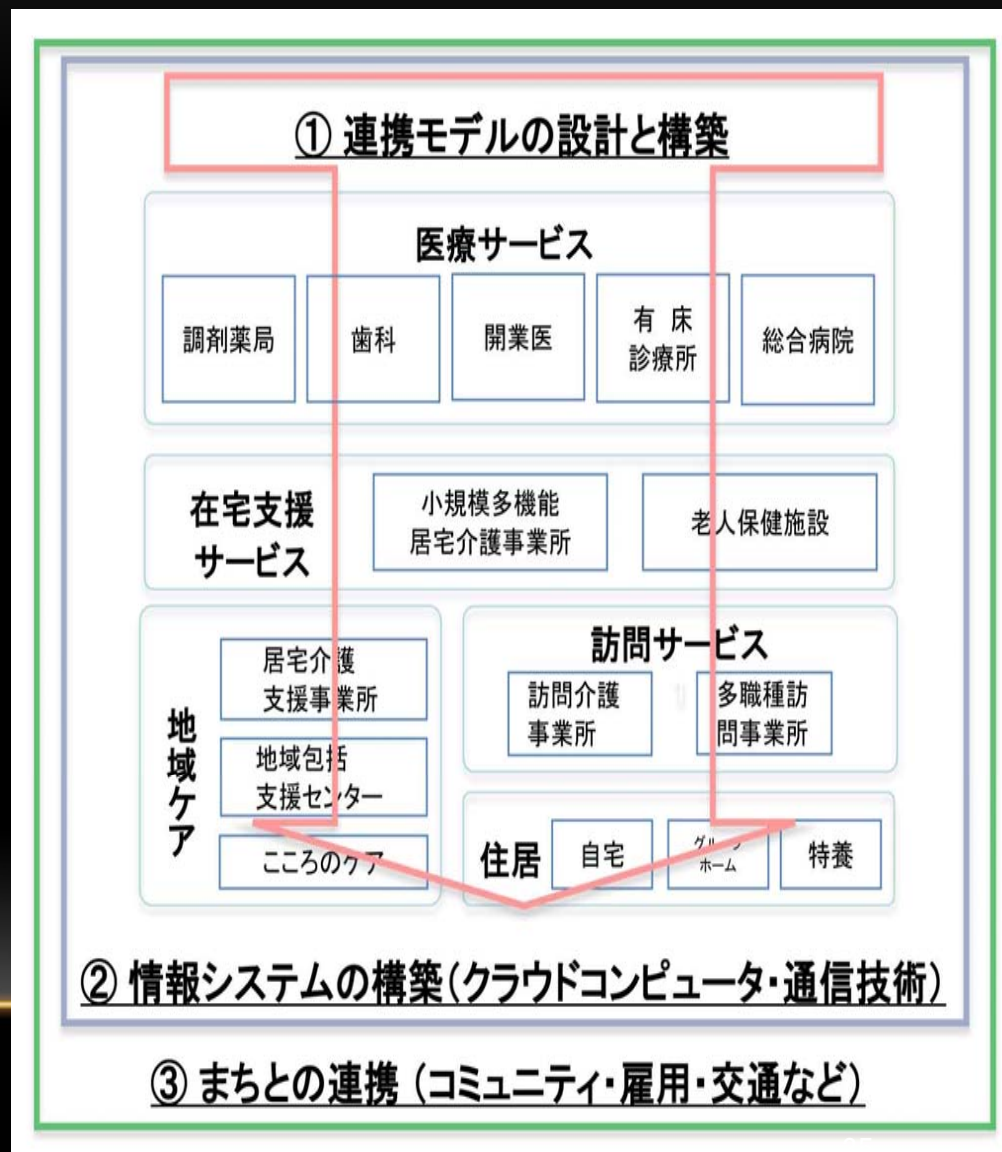
■超高齢化社会に対応したまちと医療・介護・福祉の連携モデル

本事業を推進するメリット

- ・ 効率的で質の高い医療・介護・福祉の一体化
- ・ 岩手県のヘルスケアタウンとして地域のブランド化

平成24年度前期事業内容

- ・ 医療職の誘致・定着・育成
- ・ 介護職の誘致・定着・育成
- ・ 地域医療情報ネットワーク構築
- ・ 在宅復帰可能な住宅のあり方検討
- ・ 地域包括ケアと医療・



5) 専門家に期待すること

○大船渡市においては、市街地中心部における土地区画整理事業と津波復興拠点整備事業に加え、22か所で予定している防災集団移転促進事業、約800戸の災害公営住宅整備事業を実施していく予定。

○住民の合意形成はできるだけ住民自身でお願いしたいと考えているが、住民だけでは十分なノウハウがない。

○そのような住民の合意形成のお手伝いは、専門家の方々にぜひお願いしたいところ。また、合意形成を図る上で整理が必要なこと（相続登記、抵当、今のローン、新しいローン、税金etc.）について、個々にどんな話があるのか整理していただけるとありがたいと思う。

5) 専門家に期待すること

しかし、専門家だからこそ、一般人ではないからこそ、これだけは気をつけてほしいということも多い。

特にこれから掲げる事項については厳に慎んでいただくことをお願いしたい。

5) 専門家に期待すること

①十分な検証なく、無理なことを進めないで下さい

- ・ 学問的な正しさと、現実論はだいぶ違う。 住民の本当の想い、実際に行政が打てる手段は、学問的な正しさと違うことも多い。
- ・ 例えば戸建公営住宅の払い下げ。
→これは明らかにニッチなサービス
- ・ 現在新築住宅を購入できない人が、後に払い下げを受けられる可能性は相当低い。他制度に乗れないことや様々な縛りになることを考えると、対象者は相当限定される。

5) 専門家に期待すること

②専門家の自己満足に住民や行政をつきあわせないで下さい

- ・ここぞとばかりアンケート調査などを取りたい気持ちはわかります。
- ・でも、被災者にメリットがないのにこんなことをされては、復興の邪魔です。本当に大事なアンケートに答えてくれなかったりします。
- ・東北の人はみんないい人。本当は迷惑だと思っても、遠くから来てくれたからといってお茶まで出して黙っていたりします。相当な意識がないと気づかないでしょう。

5) 専門家に期待すること

③ バランス感・生活感のない人は、地元に入らないで下さい

- ・ 専門家の提案を盲目的に信じる市民がいらっしゃいます。
- ・ また、宇宙人みたいな提案に、目を丸くする市民もいらっしゃいます。忙しい市長に、自分の提案だといって分厚い資料を見せたりする人もいます。

5) 専門家に期待すること

④都会の価値観を持ち込まないで下さい

- ・ 都会とは全く違う生活をしている人たちです。
- ・ 田舎の価値観を知らない人、理解しようとしらない人は来ないでください。
- ・ なぜ100坪では狭いのか、なぜ公営住宅の駐車場は1戸に複数台欲しいのか、高層建築物がなぜ受け入れがたいのか、なぜ平地は手放さず山を手放したがる人が多いのか、それぞれ事情があります。

5) 専門家に期待すること

⑤全体を見ながら調整する気がない人は来ないで下さい

- ・被災者の意見をまとめていただくのは結構ですが、行政や他の主体が受け入れられないものをまとめても、不幸なのは被災者自身です。

⑥複数の専門家がばらばらにかきまわさないでください

- ・言わずもがなです。

5) 専門家に期待すること

⑦権力を笠に着た発言をしないで下さい

- ・「国の考えはこうだからこうあるべきだ」とか、「市長が良いと言っていた」とか、そういう言い方で住民をまとめないでください。
- ・ニュアンスの違い、考え方の違いが取り返しのつかない問題を引き起こすことがあります。
- ・また、国がOKなものが、市町村がOKとは限りません。むしろOKではないものの方が多いくらいです。

6) 被災地の復興に向けた課題

課題は様々。「課題」の全体像を示すことは無理。

しかし、私が考えるに、大きな課題は以下のように整理されそう。

①まちづくりの合意形成プロセス

②まちづくりを進めるためのリソース（人材、財源等）

③復興に向けた経済活動を充実させるための仕掛け

④被災前から継続するまちの課題（少子高齢化等）

①はその場その場の試行錯誤。専門家にも期待する分野。

④は先述の「環境未来都市構想」のような取組を推進。

②、③について、考えていることをお話したい。

6) 被災地の復興に向けた課題

②まちづくりを進めるためのリソース について

○まちづくりを進めるためには、

- ・ 市役所（町村役場）の職員
- ・ 業務発注を行うための資金
- ・ 工事施工等を行う業者
- ・ 住民の力
- ・ 新たなアイデアを導入するための知恵 etc.

が必要。

○市役所（町村役場）の職員、業務発注を行うための資金等、
については、全国的な応援を得ることが不可欠。

6) 被災地の復興に向けた課題

3月まで横浜でお世話になっていたある方は、「東北はもうだいたい復興しているでしょ？テレビでもぜんぜんやらないし。」と言っていた

某テレビ局の記者曰く、記者本人の取材意欲がいくら高くても、数字が取れないので東北に張り付く人員が削減されているとのこと

一方で、「仙台・国分町が空前の大賑わい」なんていう情報はよく報道されるし、記憶にも残りやすい。

6) 被災地の復興に向けた課題

復興財源、復興のための全国の自治体からの派遣等、物心両面の支援は、これからますます必要（土木工事等の発注のピークはまだまだ先）

支援を全国から長期に渡って頂かなければならないが、そのうちすぐに「いつまで東北を優遇するのか」という指摘が出始めるはず

全国の知り合いの皆さんに対して、震災報道の減少は決して復興の終了ではないこと、まだまだ東北の復興には時間がかかることを、訴える必要がある

6) 被災地の復興に向けた課題

③復興に向けた経済活動を充実させるための仕掛けについて

本格的な復興にはどうしても時間がかかる

営みの仮復旧・仮復興がなければ復興は続かない

大船渡市の復興は早いと言われている

これは民間の立ち上がりの早さと、がれき処理の早さ

6) 被災地の復興に向けた課題

○大船渡駅周辺地区では土地区画整理事業、津波復興拠点整備事業で新たなまちを形成していく。

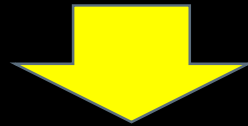
○これらの公共事業は、基本的に盛土や道路整備等を行うもの。どんな建物を建て、そこにどのような施設が入り、どのような営みをするのかは、地権者の判断。

○この判断そのものが、よりよいまちになるかどうかの分かれ目。

7) 最後に

○大船渡市は、「仮」の復興は進んでいる。

- ・ がれきは目立つところにはもうない。
- ・ 仮設店舗ではあるが、商店街や居酒屋等も開店。
- ・ ホテルや宿泊施設も、予約は取りにくいが営業中。
- ・ 水産業も復活。水揚げ高も相当戻ってきている。



いつでも皆さんお越しいただけます！観光気分でも結構。どんどん変わっていく被災地のありのままの姿を御覧頂きたいと思います。